

## 新城市民病院での地域研修を終えて

名古屋第一赤十字病院

この4週間の研修を通じて地域での医療と福祉の連携が非常に重要だということ、患者のニーズに答えつつ最適な医療を提供することは難しいということをおぼろげに学ぶことができました。

日々の初診外来にて様々な主訴で来られる患者様に対して、日常生活でどれくらい困っていて医療機関に何を期待されて受診されたのかなどを考えながら、その主訴の核心に迫る総合内科的な診察方法は普段、救急外来でしか外来診療を行わない自分にとってとても革新的でした。普段の救急外来では、極端な事を言えば「今大丈夫ならそれでよい」というのが判断基準になってしまいがちであり生活背景などを考慮する機会はありませんでした。しかし新城市というこの街の中で市民病院以外に他に大きな病院のない地域ではその患者の生活背景とニーズが特に重要視されており、そのため治療方針を大きく変えざるを得ないこともあり戸惑うこともありましたが患者様からも非常に感謝され本来の医療はこういう形で有るべきだと痛感いたしました。特に、作手診療所ではさらに医療資源が限られたなかで、患者様を市民病院へおくるべきかどうかの判断をしなくてはならない時もありました。そういった場合に医学的な根拠以外に患者様が急変時に病院へかけられる状況なのかなどの生活背景も考慮して決断をする必要があり、地域医療の難しさと同時にやりがいを感じました。

毎日の外来の振り返りでは熱意みなぎる指導医の先生方に多くのフィードバックを頂くことで、学習目標が見え日々ステップアップすることができたと思います。週に一度の内科カンファレンスでも多くのメディカルスタッフがいる中で症例提示をし、様々な視点から意見を頂くことで普段盲目的になりがちな面についてもディスカッションすることができ非常に勉強になりました。この4週間では担当させていただいた患者様の数は多くはありませんでしたが、その分一つの症例から学ぶ目標を掘り下げることができ、日赤での雑務に追われる日々とは異なる質の良い研修生活を送ることができました。外科というチーム医療がより一層求められる進路を志望する私にとって、訪問看護や訪問リハビリに参加させて頂くことでメディカルスタッフと医師との連携の重要性を再認識する機会があったこともこの研修の特徴であったと思います。

最後になりますが、この4週間の研修を支えてくださった総合診療科スタッフの方々、病棟・外来スタッフ、訪問看護ステーションのスタッフ並びに事務の方々に、お世話になりましたことをこの場にて厚く御礼申し上げます。この4週間の研修で学んだことを糧に裾野の広い医師となれるよう努めていきたいと思っております。ありがとうございました。